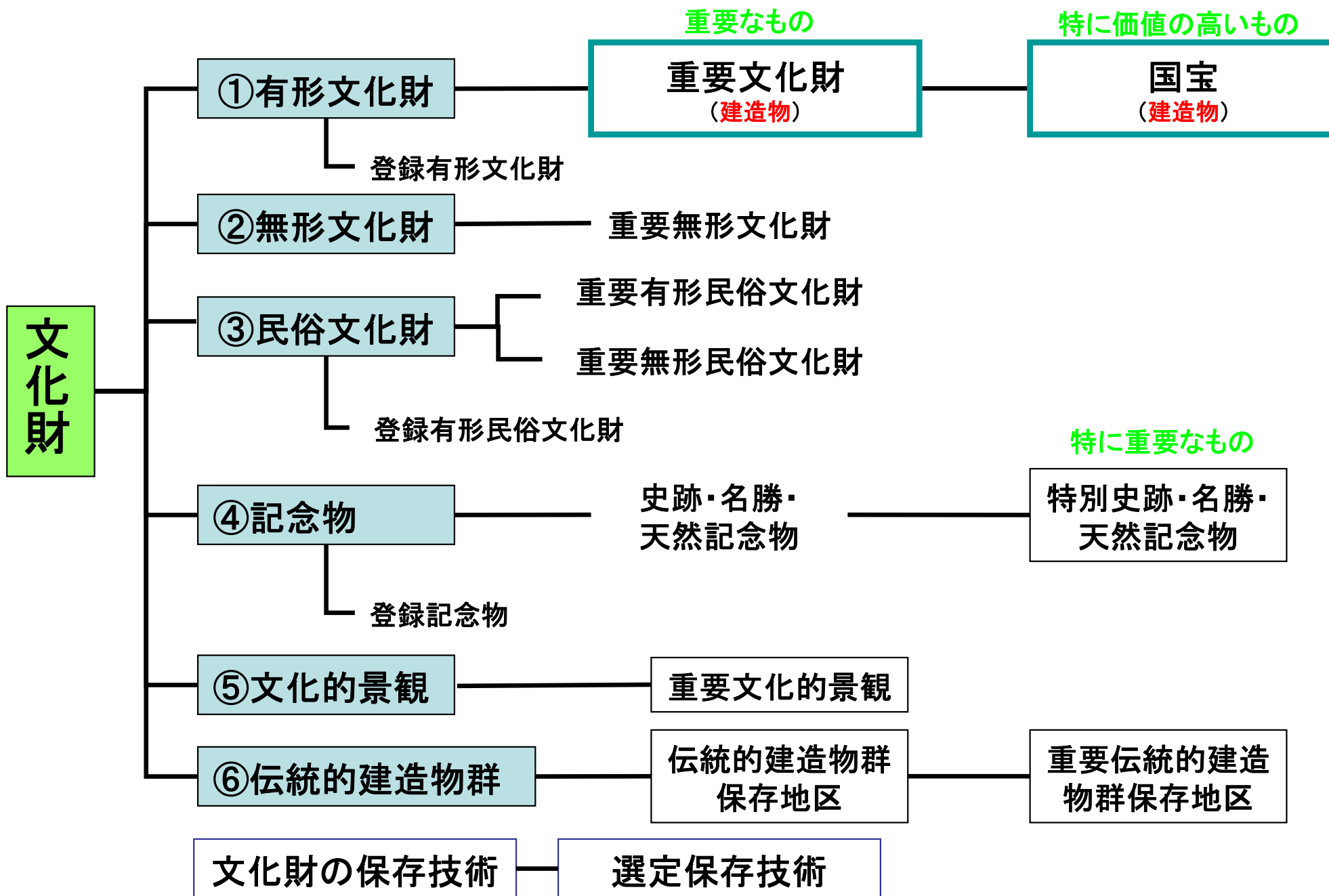


「重要文化財建造物の総合防災対策検討会」
(第1回)

重要文化財建造物について

平成20年7月14日

対象となる文化財～重要文化財建造物～



最近の国宝指定

青井阿蘇神社本殿、廊、幣殿、拝殿、楼門（熊本県人吉市）

• 平成20年6月9日告示



最近の重要文化財建造物の指定（多様な用途、構造型式）



大安寺(福井県福井市)
:木造・棧瓦葺



西福寺(福井県敦賀市)
:木造・棧瓦葺



金沢城土蔵(鶴丸倉庫)(石川県金沢市)
:土蔵造・棧瓦葺



豊橋ハリストス正教会聖使徒福音者
馬太聖堂(愛知県豊橋市)
:木造・銅板葺



大野教会堂(長崎県長崎市)
:木造(ド・ロ壁)・棧瓦葺



江上天主堂(長崎県五島市)
:木造・棧瓦葺

最近の重要文化財建造物指定（多様な用途、構造型式）

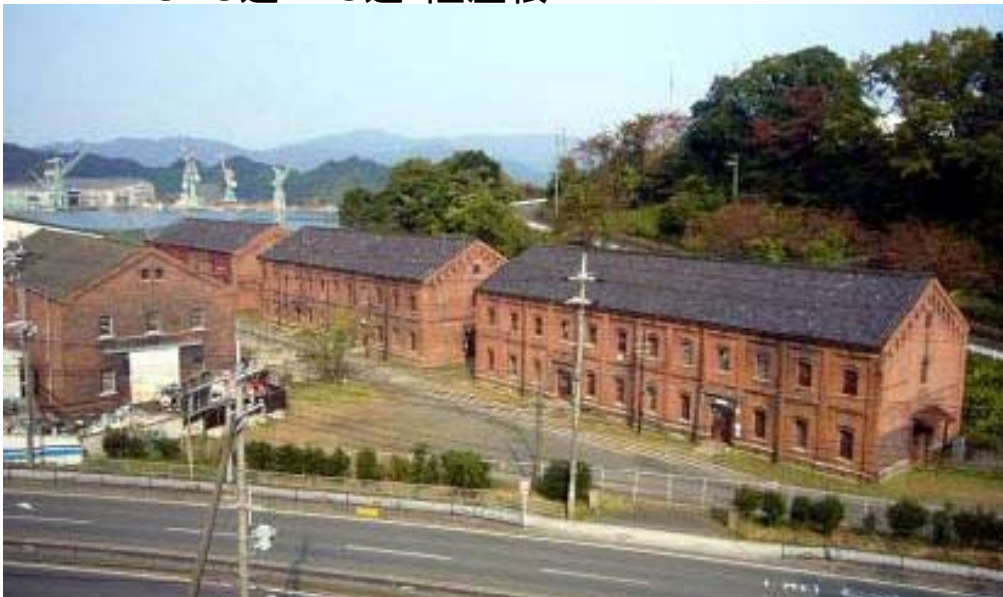
平成20年6月9日告示



旧東京科学博物館（東京都台東区）
：SRC造+RC造・陸屋根



シャトーカミヤ旧醸造場施設（茨城県牛久市）
：煉瓦造・金属板



舞鶴旧鎮守府倉庫施設（京都府舞鶴市）
：煉瓦造・金属



淀川旧分流施設（大阪府大阪市）

近畿圏に所在する重要文化財建造物

平成20年6月1日時点

		重要文化財建造物 (棟)			
		重要文化財(棟)		うち国宝 (棟)	
近 畿 圏	滋賀県	228	(5.5%)	23	(8.9%)
	京都府	571	(13.9%)	60	(23.3%)
	大阪府	159	(3.9%)	8	(3.1%)
	兵庫県	211	(5.1%)	23	(8.9%)
	奈良県	374	(9.1%)	71	(27.6%)
	和歌山県	121	(2.9%)	7	(2.7%)
合 計		1, 664	(39.5%)	192	(74.7%)
全国計		4, 210	(100.0%)	213	(100.0%)

近畿圏に所在する重要文化財建造物の構造形式

■多くの重文が木造(約91%)

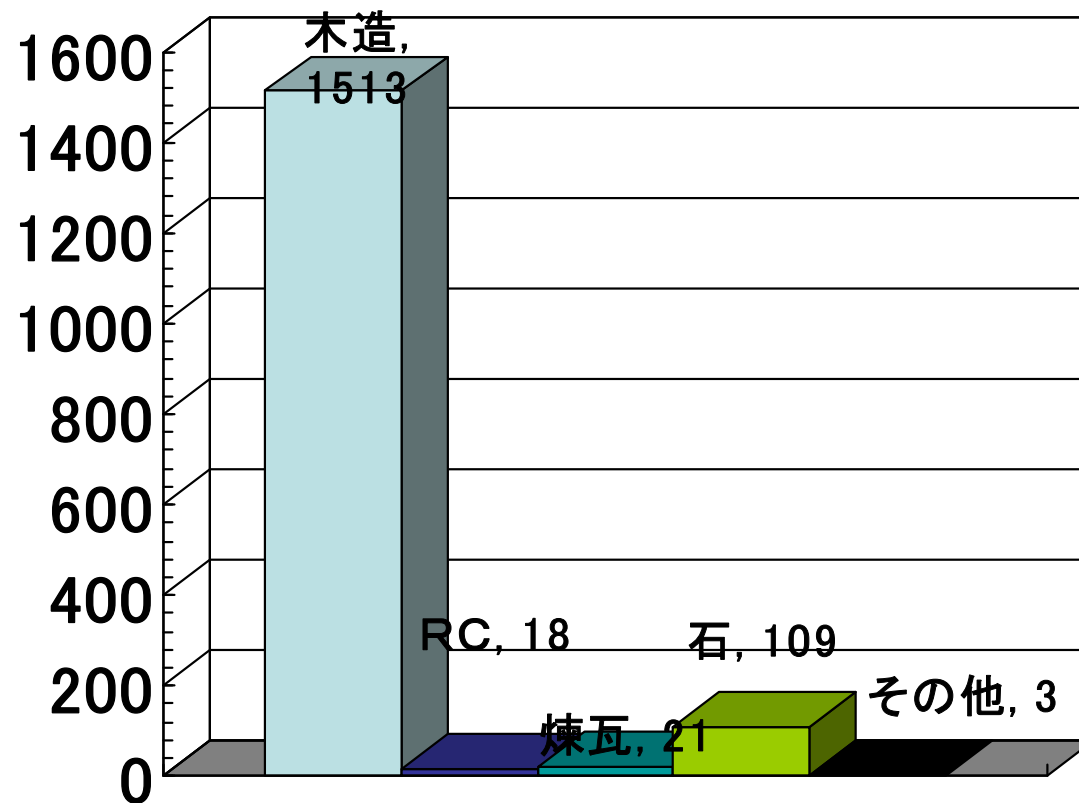
防火対策(早期発見、
初期消火)が重要

■非木造の重文

構造特性に応じた
耐震対策の検討

全国の重文の共通課題

棟数



■ 木造 ■ RC ■ 煉瓦 ■ 石 ■ その他

近畿圏に所在する 重要文化財建造物の特性（屋根材）

■ 植物性の屋根材が4割
近くを占める
⇒ 火災対策が必要

■ 復原等により植物性屋根に
復する場合がある

植物性屋根



知恩院（京都）



檜皮

屋根材	棟数	割合(約)
茅	51	3.0%
檜皮	525	31.5%
こけら	109	6.5%
とち・板・杉皮	34	2.0%
瓦	748	44.9%
金属板	58	3.4%
石	8	0.4%
その他(RC等)	131	7.8%
合計	1664	

重要文化財建造物の現状変更

玉林院本堂(京都市)

現状変更の手続きを経て、「棧瓦葺」を「檜皮葺」に復する

防災設備: 専用の貯水槽、ドレンチャージャー設備等、防災設備の強化

・平成19年～平成20年



修理前: 棧瓦

耐震補強: 修理事業に伴い耐震補強を実施

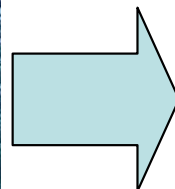
・平成15年1月～平成21年3月



修理後: 檜皮葺

重要文化財建造物の現状変更

修理前



修理後



輪王寺三重塔（栃木県日光市）

現状変更の手続きを経て、「銅板葺」を「とち葺」に復する

文化財防災（防火・耐震）の基本的な考え方

・「文化財としての価値の維持」と防災対策



縁下に設置した放水銃(本願寺)



高所式放水銃(本願寺)



壁埋込式屋内消火栓
(旧福島県尋常中学校本館)



自動首振り式放水銃(東照宮)

- ①建物への影響を最小限に抑える。
- ②景観上配慮する。